

最終提言とりまとめに対する猪名川部会として記載を要望する意見等の確認

< 本日の検討項目について >

1 利水

利水安全度を今後どう考えるか

- ・ 一庫ダムの渇水状況、今後の気候変動等を踏まえて、供給力の低下に関するリスクに対するスタンスは？
- ・ リスクを考えて供給能力の確保を / 今の利水安全度が多少落ちることになっても新規の水資源開発には慎重に対応すべき（生活様式の変化・技術開発等による無理のない節水で対応すべき）
- ・ 1生に何度か渇水を経験すべき（ただし、危機管理を十分に）

節水の方向性

- ・ 日常の節水として、具体的な方策とその有効性をどう考えるか
ハード・ソフト・人の意識の3つで対応を
経済的インセンティブ（節水型トイレの導入補助、水道料金による誘導等）

水需要予測について

- ・ 計画水量と使用水量の実績値との乖離を踏まえ、需要水量の予測に節水意識を取り込むことも含め再評価する。

淀川からの水に依存している状況について

- ・ 淀川からの水依存度と自己水源の確保
- ・ 複数水源とリスク緩和
- ・ 既存ストックの利活用

2 利用

「里川」である猪名川の高水敷の利用の考え方

- ・ 将来的には、運動公園など本来高水敷には無かったものは堤内地に戻していくが、当面は都市的利用と自然的利用のバランスをはかってゾーニングにより対応する。
- ・ ゾーニングの方向性は？
例えば、環境の学習に適したゾーンの確保
河川保全区域を活用して堤内地も河川と同様に管理を
- ・ 運動公園等の新規の占用については基本的に認めない。（占用許可の順次撤回、取り消し等を）
- ・ 自然的利用をはかるゾーンに関する管理の方向性は、

<これまでの意見の確認>

3 治水について

破堤による壊滅的被害の回避を優先的に考える。あわせて浸水被害の軽減もはかる。

治水対策の原則は以下の通り。

- ・ 現在の堤防を活用する
- ・ 現在の堤防を今以上高くしない
- ・ 下流に負担を与える整備はしない。
- ・ 狭窄部は当面は（原則として）開削しない。

被害の軽減に向けてソフト対策を充実する。：猪名川部会として特に強調する

- ・ ソフト対策の内容としては、
 - 情報の周知徹底：水害の危険がある地域に住んでいることの徹底 / 提供だけでなく理解を確認するまでの周知 等
 - 住まい方、ライフスタイル等の対応：改築等の支援 / 移転の促進 等
 - 避難の徹底：

4 環境

猪名川の河川環境の保全・復元の目標：「里川」

河川形状

洪水時などの自然の攪乱によって、瀬・淵・中州・寄せ洲・一時的水域がおのずと再生するよう、中水敷、高水敷の切り下げ、緩傾斜化を行う。

「里川」として猪名川の河川環境を保全・復元するための一定の管理の方向性：

生態系に影響を与える植物（外来種）をかりとる、外来種の後に来種を植える
そこで卵を産んで、次の世代につなげられるような自然の保全・回復

5 全般について

都市河川としてすぐれた河川であることを強調

「里川」的特性